

令和2年度 家政学部 後期授業アンケート結果の講評

学科/専攻： ライフスタイル学科/家政学専攻

講評者： 学科長/専攻主任名 丹羽 誠次郎

*アンケート内容は下記の通り。

質問 1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問 2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問 3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問 4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問 5. 教員は、学生が社会人基礎力を活用できる授業を展開した。

質問 6. 教員は、シラバスに沿って学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問 7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問 8. 教員が作成した予習・本時・復習シート(PCRシート)は、学修内容の理解に役立った。

★1-8の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

質問 1～8 学生の授業や教員に対する評価について

授業や教員に対する評価についての設問のうち Q1～Q7 に対する学生の回答は、「強くそう思う」が49%～40%、「ややそう思う」を含めると82%～67%と概ね肯定的な評価をしていることがわかる。しかし、前期のアンケート結果と比較すると、わずかずつではあるが全項目とも評価が下がっている。特に成績評価基準の明瞭度を問う Q7 は5%下回る結果となっている。さらに Q8「教員が作成した PCR シートは学習内容の理解に役立った」は肯定的な評価が70%から62%となっており、適切な教材準備の再考が求められる結果となった。

質問 9. あなたは、予習・本時・復習(PCRシート)に記載されている社会人基礎力の能力を発揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問 10. 毎週、あなたはシラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。

質問 11. 毎週、あなたはシラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。

質問 12. 予習をすることで、学修内容への理解が深まった。

質問 13. 復習をすることで、学修内容への理解が深まった。

質問 14. あなたは、予習時間を毎週どのくらい費やしましたか。平均したおよその時間(10分単位程度)で教えてください。

質問 15. あなたは、予習(復習)時間を毎週どのくらい費やしましたか。平均したおよその時間(10分単位程度)で教えてください。

質問 16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問 17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

★9-13、16-17 の選択肢：「5 強く思う」「4 やや思う」「3 どちらともいえない」「2 あまり思わない」「1 全く思わない」

★14,15 の回答：記述式（数値入力）

質問 9～17 学生自身の学修に対する評価について

自身の学修に対する評価について設問のうち Q9～Q13 に対する学生の回答は、「強く思う」「やや思う」を合わせた結果が 63～48%で、これは前期とほぼ同様の値であるものの、やはり多くの項目でわずかずつ下回っている。授業への満足度を問う Q18 でも肯定的な評価は 71%（前期は 73%）となっている。その中で復習による学修への理解度を問う Q13 のみ肯定的な回答が 3%増加している。前期ではいずれも平均 36 分であった予・復習の時間がそれぞれ 52 分、59 分と大きな伸びを示していることもこの結果と関係しているのではと推測される（ただし予習による学修への理解度を問う Q12 は 1%下落）。

質問 18. 本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか。（複数回答あり）

★18 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

質問 18 学生自身の学修行動に対する評価について

Q18「本授業の学習行動において、発揮できなかった能力はどれですか(複数回答可)」に対する学生の回答は 14%～30%の範囲で 3 つの力、12 の能力要素それぞれに満遍なく分布している。その中で前期には 31%もの学生が発揮できなかったとしていたストレスコントロール力が 20%に低下し、発信力についても 25%から 14%と回復している。「コロナ禍」での大学生活、学修環境に学生たちが適応しつつあることの反映ではないかと考えられる。

令和2年度 家政学部 後期授業アンケート結果の講評

学科/専攻： 管理栄養学科/管理栄養士専攻

講評者： 学科長/専攻主任 竹村 ひとみ

*アンケート内容は下記の通り。

質問 1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問 2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問 3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問 4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問 5. 教員は、学生が社会人基礎力を活用できる授業を展開した。

質問 6. 教員は、シラバスに沿って学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問 7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問 8. 教員が作成した予習・本時・復習シート(PCRシート)は、学修内容の理解に役立った。

★1-8の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

質問 1～8 学生の授業や教員に対する評価について

学生の授業や教員に対する評価 Q1～Q8 について、強く該当する、やや該当するの回答が62～82%を占めた。最も高値であった項目はQ1「授業時間分の学修内容の実施」、最も低値であった項目は「PCRシートが学修内容の理解に役立った」、次いで「学生が社会人基礎力を活用できる授業展開」と2020年度前期と同様であった。コロナ禍における一部非対面授業の影響は、前期と同程度と推察される。また、PCRシートが学修内容の理解に役立つよう改善する余地がある。

質問 9. あなたは、予習・本時・復習(PCRシート)に記載されている社会人基礎力の能力を發揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問 10. 毎週、あなたはシラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。

質問 11. 毎週、あなたはシラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。

質問 12. 予習をすることで、学修内容への理解が深まった。

質問 13. 復習をすることで、学修内容への理解が深まった。

質問 14. あなたは、予習時間を毎週どのくらい費やしましたか。平均したおよその時間(10分単位程度)で教えてください。

質問 15. あなたは、予習(復習)時間を毎週どのくらい費やしましたか。平均したおよその時間(10分単位程度)で教えてください。

質問 16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問 17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

★9-13、16-17 の選択肢：「5 強く思う」「4 やや思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

★14,15 の回答：記述式（数値入力）

質問 9～17 学生自身の学修に対する評価について

Q9 の「PCR シートの社会人基礎力の能力を発揮して予習・復習に取り組んだ」は、強く思う、やや思うが 67.7%を占めた。Q10～Q13 の「シラバス内容を確認しての予復習の実施」、「予復習により学修内容への理解が深まった」について、各々予習より復習の値が若干高値を示した。毎週の自己学修時間の平均は、予習 32 分、復習 43 分であった。一方、自己学修を 90 分以上実施している割合は、予習 81%、復習 74%と、学生間に差がみられるが、前年度後期に比し自己学修に多くの時間を費やす割合は増加した。Q16「到達目標の達成」は強く思う、やや思うが 61%、どちらともいえないが 36%、あまりそう思わない、全くそう思わないが 3.3%と、前年度後期に比し良好であった。Q17 の「総合的満足度」は 72%、24%、4.2%と、前年度後期と同水準であった。

質問 18. 本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか。（複数回答あり）

★18 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力 8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

質問 18 学生自身の学修行動に対する評価について

発揮できなかった能力要素（複数回答）の問いに対し、発揮できなかったと回答した能力要素の割合は 10~27%の範囲であった。比較的回答割合の低かった要素は「実行力」「傾聴力」「規律性」であり、前年度後期と同様であった。一方で、「働きかけ力」「発信力」はおよそ 27%の学生が発揮できなかったと回答しており、能力要素、割合共に前年度後期と同様の傾向がみられた。学修行動において、今期の非対面授業の影響は少なかった。今後、授業形態別または科目毎の傾向についても分析していく必要がある。

令和2年度 家政学部 後期授業アンケート結果の講評

学科/専攻： こどもの生活学科/こどもの生活専攻

講 評 者： 学科長/専攻主任 加藤 万也

*アンケート内容は下記の通り。

質問 1. 教員は授業時間分の学修内容を実施していた。

質問 2. 教員の説明は明確で理解しやすかった。

質問 3. 教員は質問や相談ができるように配慮していた。

質問 4. 教員は学生の理解を確かめていた。

質問 5. 教員は、学生が社会人基礎力を活用できる授業を展開した。

質問 6. 教員は、シラバスに沿って学修内容を明確にし、授業に取り組んでいた。

質問 7. 教員は、授業の成績評価基準を明確に説明していた。

質問 8. 教員が作成した予習・本時・復習シート(PCRシート)は、学修内容の理解に役立った。

★1-8の選択肢：「5 強くそう思う」「4 ややそう思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全くそう思わない」

質問 1～8 学生の授業や教員に対する評価について

授業や教員に対する評価としては「強くそう思う」と「ややそう思う」を合わせると、どの質問も概ね80%程度であり、授業や教員に対しての満足度は得られていると考えることができる。ただし、「どちらともいえない」の割合が20%程度あるということから、まだまだ改善の余地はあると思うので、学科教員が一枚岩になって、学生からの信頼を得られるような努力をしていきたい。

質問 9. あなたは、予習・本時・復習(PCRシート)に記載されている社会人基礎力の能力を發揮して、予習・復習に取り組んだ。

質問 10. 毎週、あなたはシラバスの学修内容を確認して、予習を実施した。

質問 11. 毎週、あなたはシラバスの授業内容を確認して、復習を実施した。

質問 12. 予習をすることで、学修内容への理解が深まった。

質問 13. 復習をすることで、学修内容への理解が深まった。

質問 14. あなたは、予習時間を毎週どのくらい費やしましたか。平均したおよその時間(10分単位程度)で教えてください。

質問 15. あなたは、予習(復習)時間を毎週どのくらい費やしましたか。平均したおよその時間(10分単位程度)で教えてください。

質問 16. あなたは、シラバス記載の学修の到達目標が達成できた。

質問 17. この授業は、あなたにとって総合的に有意義で満足できるものであった。

★9-13、16-17 の選択肢：「5 強く思う」「4 やや思う」「3 どちらともいえない」「2 あまりそう思わない」「1 全く思わない」

★14,15 の回答：記述式（数値入力）

質問 9～17 学生自身の学修に対する評価について

これらの項目は「やや思う」と「どちらともいえない」に集中しており、概ね 60～70% という数値になっている。自身の学びについて、もっと自信を持てるような指導が必要であり、そのために授業に対するフィードバックを明確にする必要性を感じている。ただ科目によって予復習の方法やフィードバックの方法に様々な違いがあるのは当然なので、それを踏まえた上で、学生が自身の学びに対して「自信」を持てるような働きかけが教員側に求められる。

質問 18. 本授業の学修行動において、発揮できなかった能力はどれですか。（複数回答あり）

★18 の選択肢：1 主体性 2 働きかけ力 3 実行力 4 課題発見力 5 計画力 6 創造力 7 発信力
8 傾聴力 9 柔軟性 10 状況把握力 11 規律性 12 ストレスコントロール力

質問 18 学生自身の学修行動に対する評価について

統計から見ると、社会人基礎力の能力要素のうち発揮しきれなかったものは「主体性」と「発信力」が 10%程度で、それ以外は一桁であった。発揮できなかった「主体性」と「発信力」は、教育・保育の現場に立つものとして最も重要な要素だと考えるので、今後はより一層、授業内での工夫においてこれらの能力を伸長する体制を整えていく必要があると考えている。そのために、各授業においてどのような方法を用いているかの報告会や勉強会などを設け、全学科教員で能力向上のための手立てを構想していくつもりである。